

入院しても続けられる！高校生活！

## 入院中の高校生の学習支援



高校生活が続けられたらきっと入院中の心の支えになるのに……

少しでも不安を軽減してあげたい

今後の学校生活はどうなるの？

クラスの様子が知りたいな……

留年せずに卒業できるのかな？



何とか進級できないだろうか？

安心して復学してほしいけれど……

入院中に勉強はできるのだろうか？



桃陽総合支援学校の医教連携コーディネーターが相談をお受けします。

「育（はぐくみ）」支援センター桃陽では、入院する高校生の教育相談や学習支援に取り組んでいます。

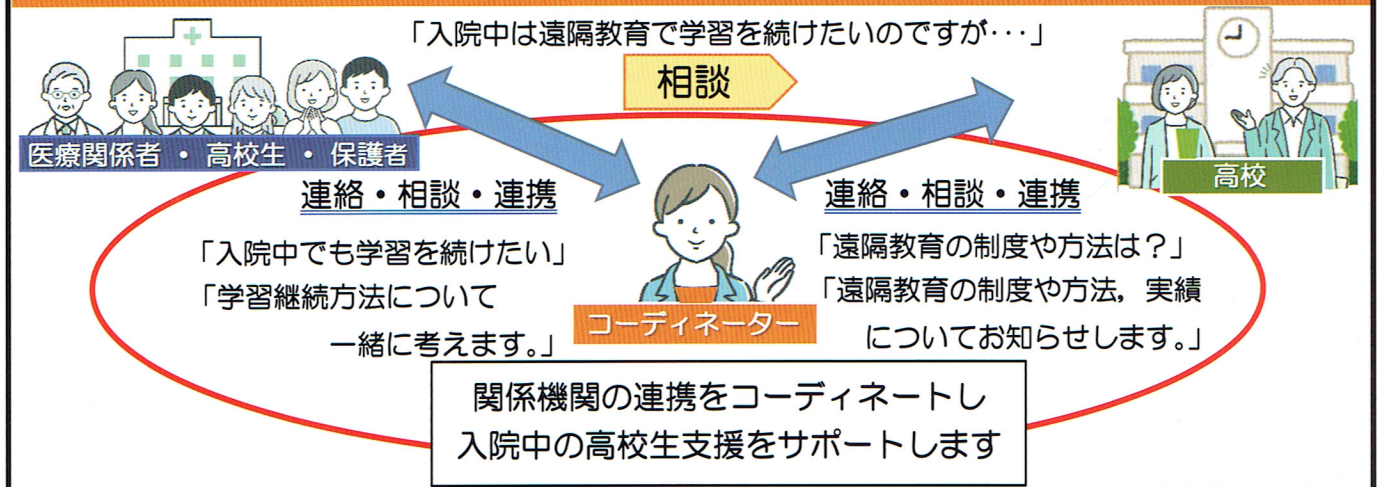
内容： 「高校生・保護者等の教育相談」「配信授業に関する相談」  
「学生ボランティアによる高校生支援」

京都市立桃陽総合支援学校 TEL:075-641-2634（本校）

## 医教連携コーディネーター（相談窓口）

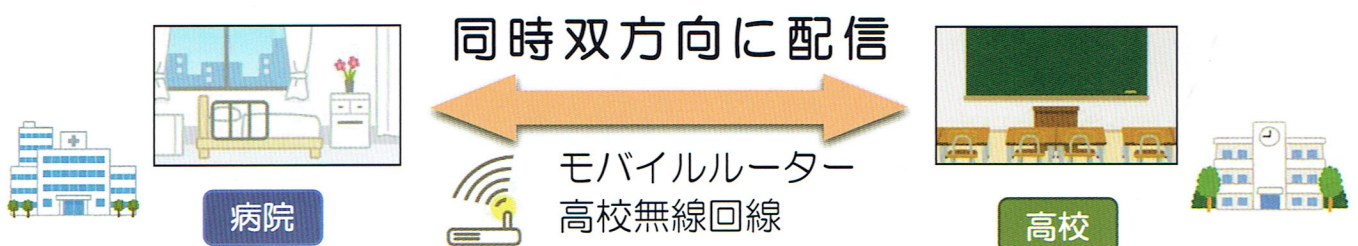
桃陽総合支援学校では、入院する高校生の教育相談担当として『育(はぐくみ)』支援センター桃陽に医教連携コーディネーターを配置しています。医教連携コーディネーターが「高校生」「保護者」「高校」「医療関係者」等の相談を受け、入院中も学習が継続できるようにコーディネートします。

### 「医教連携コーディネーター」によるコーディネート



## 入院中の学習支援について

インターネット等を利用して高校の授業や活動を同時に配信し視聴することができます。



Q：病院で授業を視聴することで出席認定できるのですか？

A：同時双方向型の配信授業を視聴することによって出席認定や単位認定することが可能です。

Q：授業で使用するプリントはどのようにして病院側に届けるのですか？

A：データで送付したプリントを病院側のダイレクトプリンターで印刷することができます。

Q：入院中に定期テストを実施することはできますか？

A：医教連携コーディネーターや医療関係者が問題用紙の配付や答案用紙の返送等をサポートすることで、クラスメイトと同時に受験することができます。



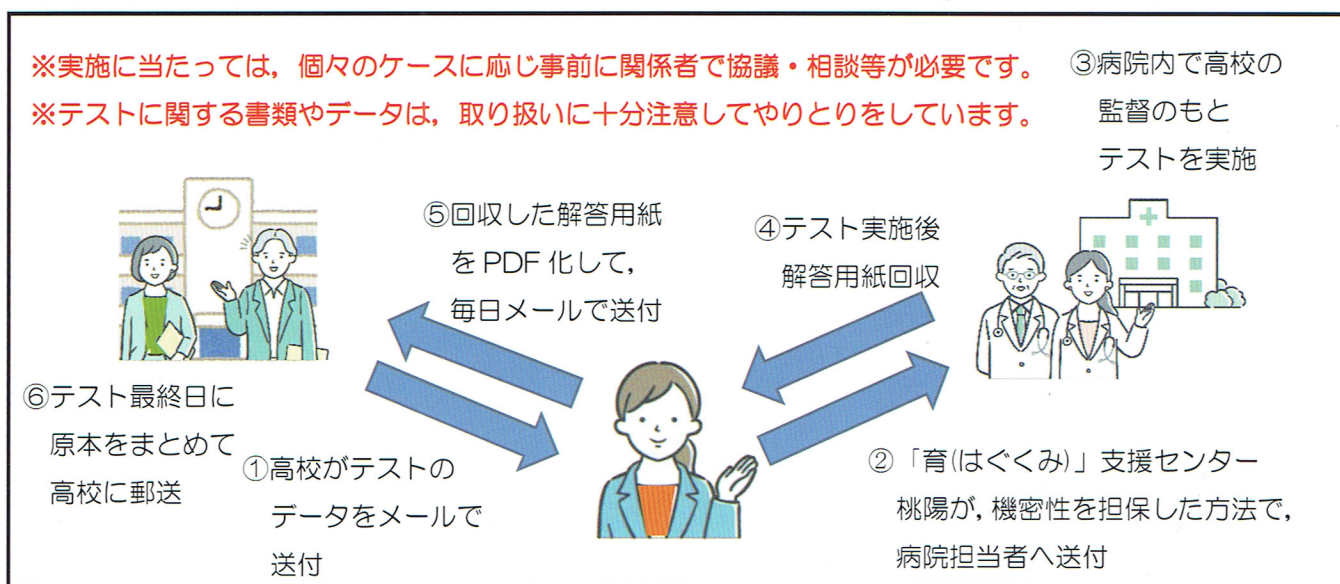
単位認定のために定期テストを受けてもらいたいのですが入院中では難しいですよね……？

医療機関と高等学校の連携によって、クラスメイトと**同時**に定期テストを受けることができました！



### 「定期テストを受けられますか？」

長期入院中の高校生にとって、定期テストを受けられるかどうかというのは単位認定にもつながる重要なポイントです。高校側からも、「単位認定のために定期テストを実施したいのだがどうしたら良いだろうか。」という相談を受けることは少なくありません。「育(はぐくみ)」支援センター桃陽では、入院する高校生が定期テストを受けられるように全力でサポートします。



上図のような流れで、医療機関や高校と連携しながら、入院する高校生が、クラスメイトと同じ日の同じ時間に、同じ定期テストを受けることができるよう支援いたします。

実際にこれまでも多くの高校生の定期テストをサポートしており、単位認定につながった例も数多く存在します。

### 「留年せずに卒業できるという希望は入院生活の支えになります」

入院する高校生と日々接しているのは医療関係者の皆さんです。過去に定期テストの補助をお願いした病院の関係者からは「留年せずに卒業できるという希望が入院生活の支えになります」という言葉をいただきました。入院中でも高校生活を続けられるということが不安を軽減することにつながります。それに加えて配信授業が出席・単位認定につながることで、学習意欲は一層向上します。

「定期テストを受けられれば単位を取れるかもしれない」「留年せずに卒業できるかもしれない」という希望が入院生活の心の支えになるのです。「教育は治療のエネルギーである」と考え、支えてくださる医療関係者の方々の協力があるからこそ支援を続けることができます。



入院中の学校やクラスの様子がわからない。  
退院したらまたこれまでのように学校に行けるのかな？

長期入院後、学校に戻るのには少し不安もありますよね。

**同時双方向型**の配信授業で復学をサポートします！



## 「久しぶり！」「お帰り！」

長期入院が続くと、いざ退院が近づいた時に「このまま本当にこれまでのように学校に行けるのかな…？」と不安になることがあります。「友だちは自分のことをどう思っているのだろうか」「入院中に授業が進んでしまっていたらついて行けるだろうか」そんな考えが頭をよぎると言います。

「育(はぐくみ)」支援センター桃陽では、同時双方向型配信授業を通じて、高校生活の今を共有することにより、入院する高校生の不安を解消し、円滑な復学につなげていきます。



同時双方向型配信授業を受けている様子



復学時にクラスメイトから花束を受け取る様子

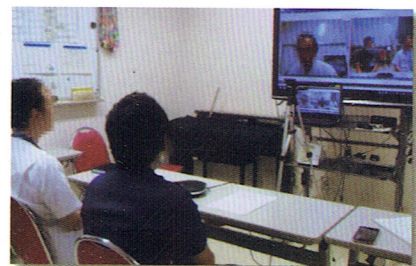
今の学校の様子がわからないために、不安ばかりが浮かんでいきますが、いざ話をしてみると、クラスメイトは温かく迎え入れてくれます。「久しぶり！」「お帰り！」友人からのそんな言葉が治療の後押しになり、また、学級への帰属意識を失うことなく円滑な復学にもつながっています。

## 「何ができて、どこに配慮したら良いのでしょうか」

また、退院後の復学の際に不安を抱えているのは高校側も同じです。退院したとは言え、完治していない状態での復学が多いため、医療の専門家ではない学校の先生たちからは「何ができて、どこに配慮したら良いのでしょうか」という相談を受けます。「育(はぐくみ)」支援センター桃陽では、退院時に医療機関とのカンファレンスの機会を必ず設けて、復学後の配慮事項について丁寧な説明をしてもらいます。



退院時のカンファレンスの様子（必要に応じて対面やオンラインで実施）



退院後の生活を支える高校側の不安もできる限り取り除くことができるようにサポートしています。

## 同時双方向型配信授業で使用している機材等

### 無料通信アプリを利用することで、配信授業をより身近で使いやすく

現在高校生支援で活用しているアプリは「Zoom」「Teams」「Whereby」などといった、一般的なビデオ通話でも使用されるような無料通信アプリです。高校生にとって身近になりつつあるこれらのアプリを活用することによって使いやすく、「気軽に参加できた！」という声も届いています。また、配信授業を行う際には高校側、高校生側に使用方法を丁寧に説明し、必要に応じてタブレットなどの機材も貸し出しています。



### テレプレゼンスロボット「kubi」を活用して教室にいるかのような感覚を

同時双方向型配信授業の課題の一つとして、授業中に黒板の見えにくい個所があった時や、少し視点を変えたい時などに、声を出してカメラの向きを調整してもらわないといけない、ということがありました。そこで病室からの遠隔操作によってカメラの視点を変えることができる、テレプレゼンスロボット「kubi」を導入しました。これによって授業中でも自身でカメラの視点を調整することができるようになり、気を使うことなく授業に集中することができます。



実際に「kubi」を使用した高校生は「これまでは授業中に声を出してお願いするのが申し訳なく、恥ずかしいという思いもあった。これなら気をつかわないし、まるで自分も教室にいるかのような感覚になった」と話してくれました。

## 同時双方向型の配信授業に関する制度について

～出席・単位認定の要件が緩和されています！～

- 入院生徒に対する教育保障は全国的に課題となっており、平成25年度に実施された文部科学省の調査において、長期入院する高校生の約7割が、入院中に学習支援を何ら受けられていない実態が明らかになっています。
- そうした中、教育支援が受けられ、出席・単位認定ができるよう、制度の見直しによる要件緩和等が進んでいます。

### ●平成27年【学校教育法施行規則改正】

遠隔教育の制度化（メディアを活用した同時双方向型の遠隔授業が可能に）

### ●令和元年【文部科学省通知】

受信側の教員の配置要件の緩和（病室等への当該高校の教員配置は必ずしも要しない）

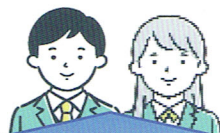
### ●令和2年【学校教育法施行規則改正】

同時双方向型の授業による単位修得数の上限緩和

（病気療養中等の生徒は上限（74単位中36単位まで）を撤廃）

入院中の高校生支援に取り組んだ結果、直近5年間で、市立高校生4名、府立高校生9名、私立高校生6名、府外高校生1名が、出席・単位認定を受けて進級や卒業することができています。

## 遠隔教育を受けた高校生の感想



登校する授業と大きな差はなく分かりやすかった。リアルタイムの授業を受けることで、生活リズムを整えることができてよかった。

治療でしんどいこともあるけれど、入院中は時間を持て余すことが非常に多いので、配信授業が受けられることは時間を有効に使えて良かった。しんどい時は自分でベッドに横になり休むことができるので、体調的な負担はなかった。

遠隔教育がなかったら今頃退学していたと思う。とても有難かった。

## 遠隔教育を実施した高校の感想



長期入院中でも学習を中断することなく、クラスメイトとコミュニケーションがとれることは、入院中の生徒が治療と向き合い、病気を克服する上で非常に大きな支えとなることがわかった。

病気がわかった時は気持ちが沈み込んでいるように感じたが、遠隔教育で卒業への見通しが立ち、学習意欲を持つことができた。長期入院により今後の見通しや目標を定めにくい生徒にとってとても励みになると感じた。

入院生徒の学習保障の観点から可能な限り支援を進めることが必要だが、遠隔教育で支援することは学校には思いつかず、病院との連携もノウハウが無く難しかった。桃陽総合支援学校にサポートしてもらえて大変ありがたかった。

入院療養しながら教育を受けられる



## 京都市立桃陽総合支援学校

本校・訪問教育

TEL:(075) 641-2634 FAX:(075) 641-2648

〒612-0833 京都市伏見区深草大亀谷岩山町 48-1

国立京都医療センター 分教室(3階) TEL・FAX:(075) 643-8450

〒612-0861 京都市伏見区深草向畑1-1(国立病院機構京都医療センター内)

京大病院 分教室(5階)

TEL:(075) 751-4362 FAX:(075) 751-4277

〒606-8507 京都市左京区聖護院河原町54(京都大学医学部附属病院内)

府立医大病院 分教室(5階)

TEL・FAX:(075) 251-5877

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル樫井町465(京都府立医科大学附属病院内)

京都第二赤十字病院 分教室(3階) TEL・FAX:(075) 212-6145

〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町355-5(京都第二赤十字病院内)

京都市立病院 分教室(本館4階) TEL・FAX:(075) 311-5333

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1の2(京都市立病院内)